無鉄道人生

西島　正史

0.　はじめに

今年で高輪学園に来てから、そして旅行・鉄道研究部と関わりを持ち 8 年目を迎えます。本当は 10 年という節目で何かしら書こうと目論んでいたのですが、寸暇を惜しんで停車場の編集作業をしてくれている部員の頼みを断りきれず、締切日後の 8 月 23 日(火)になって書き始めました。あまりのことに当然何を書くかなんて決まっていません。活動時間内には考えがまとまらなかったため、帰宅後落ち着いてから題材探しを改めて始めました。

普段の活動や今まで部で訪れた旅行先のことを思い出している中で、幾度となく頭の中に「結局そういうことなんだよなぁ。」という言葉が個性豊かな部員たちの顔とともに浮かんでは消えていきました。無意識に独り言をつぶやきながら喜怒哀楽を表情にも出していた私は、ふと我に返ると周囲を怪しい動きで確認し、誰もいなかったことに安堵感を覚えました。こんな姿、誰にも見せられません。そして額に滲んだ変な汗を拭うと、何を書くかまとまっていました。

前置きが長くなりました。ここからは、旅行・鉄道研究部の顧問になった私、そして部員たちについてほんの一部ですが書いていきます。最後にこれから先もずっと鉄道を趣味としていくために、頭の片隅に置いておいてほしいことを伝えようと思います。主に現部員に向けてのものになりますが、鉄研に興味を持ってくれている小学生のみなさんには、もし高輪学園の鉄研に入ることがあれば、どういう部員や顧問なのかを少しでも感じ取ってもらえればと思います。また、ご子息の鉄道趣味に引きつった笑顔で対応なさっている保護者の方がいらっしゃるのであれば、何か共有できる部分があるかもしれません。最後に、題名を読んでもなおここまで読み進めてしまった鉄道好きの方へ一言申し上げます。この文章には鉄道好きの方にとって不愉快で非常識な内容が書かれていると思います。

1.　私という一般人と鉄道

このような趣味性の高い部活の顧問をしていると聞くと、中には「さぞかし鉄道好きなのだろう。自分の趣味と部活が一緒だなんてうらやましい。」と考える方がいるかもしれません。私自身初めての活動日から今日に至るまで、何度そうであればと思ったことでしょうか。お察しくださった方もいらっしゃるはずです。そうです。ここではっきりと申し上げておきたいのは、

「私は鉄道が趣味ではない。」

ということです。

自動車も二輪車も時間を見つけては積極的に乗るので、顧問になってから 7 年 5 カ月経った今でもそれは変わっていないように思います。ただ、これだけの期間鉄道好きの部

員に囲まれていると変わってくることもあります。

以前の私は鉄道を単なる移動手段としか考えていませんでした。旅行で鉄道を利用する際は、早く目的地に着くことしか頭になく、特急や新幹線を使うことばかりでした。そして、目的地に着いてからはレンタカーで観光地巡り。乗る車両に関しても「新しい電車だな。」、「古い電車だな。」と一瞬思うくらいで、その電車が～系/形だなんて考えたこともなければ、山手線のどちらが内回りで外回りかも知りませんでした。ところが今では自分が乗る列車が何か、通過していった列車が何か余裕があると気にかけるようになっているのです。さらには各駅停車の旅に慣れてしまっている自分がいます。恐るべし、鉄研…

それでもまだ車両の顔と形式を一致させることは難しいです。興味を持って覚えようとその車両の特徴等を部員に聞き、自分でも車体に書いてある番号を確認して繰り返し唱えてみるのですが、どうしても知らない間に記憶から抜け落ちてしまいます。自動車や二輪車の名前はすぐに覚えられるのに、それが鉄道の車両になると覚えられないのはなぜかとあれこれ考えてみました。数学が苦手な私にとっては、形式に数字が並んでいることが覚えられない原因の一つだろうと今結論が出ました。おそらく保護者の方の中にも色々とお子さんから説明されたのにもかかわらず、次にその車両を見かけたり乗ったりしたときには覚えて(なんか)いないという経験をされた方がいらっしゃるはずです。

顧問になる前の鉄道関係の記憶をたどってみると、幼稚園の頃よく祖父の自転車の後ろに乗せられ、当時まだ気動車だった川越線の車両を見に行っていたことが思い出されます。「気動車」なんて書いていますが、顧問になるまでそのような単語は一度も使ったことはなく、すべて「電車」と呼んでいました。興味を持つなら絶好の機会だったのでしょうが、そこにはそそられることがありませんでした。これはもう本質的な問題なのでは…

大学生になって初めて電車通学を始めたことも原因の一つとして挙げられるかもしれません。そしてここでようやく二つ目の鉄道関係の記憶が呼び覚まされます。3 路線(東武東上線、丸ノ内線、東海道線・横須賀線)を使って通学していた私の記憶にあるのは、正直乗っていた車両の色くらいです。部員に聞くまで東海道線(緑)と横須賀線(青)は色違いの同じ車両だと思っていたくらいです。まして色に名前がつけられているなんて考えたことすらありませんでした。そして今でも車両の違いがわかりません。

学生時代に強く印象に残っていることが二つあり、一つは確か 22 時台の上り電車に二階建ての車両が使われていたこと、もう一つが頑張って早起きすると東京駅から踊り子号で使われている車両に定期券で乗ることができたということです。ところが、そこには罠があったのです。それは、

「特急で使用される車両が提供する快適さ」

でした。日常的に寝不足だった私は、睡眠時間を取り戻すためにわざわざそれを狙って早起きするという行動に出たのです。これで 37 分間寝られると安心しきる私を、私の睡眠不足のことなんて知らない列車は何度となく下車すべき駅よりも先に運び、一時限目の遅刻を繰り返させるのでした。

2.　彼らと鉄道

私が小学生や中学生の頃を振り返ると、今ほど鉄道を趣味とする人を見かけることがなかったように記憶しています。今はどうでしょうか。通勤、通学途中や鉄道を利用した旅行中に車両にカメラを向けている人を見ないことはないと言っても過言ではないように思えます。顧問になる前の私は、本屋で表紙だけ見た雑誌にとらわれていたのか、勝手にこの車両の撮影=鉄道が趣味という式を成り立たせていました。一言よろしいでしょうか。

「全部私が間違っていました。」

60 名近い部員を見てみると、JR が好きな部員もいれば私鉄が好きな部員もいます。車両は機関車や貨物列車にもおよび、さらには走行音、エンジン音、車内アナウンス、駅の発車メロディ等の音関係が好きな部員、純粋に乗ることを楽しむ部員、写真撮影にのめり込む部員もおり鉄道の趣味が多岐にわたっていることがわかってきました。そして部員たちとの春、夏、冬の年三回の旅行から「旅行先での観光」よりも「鉄道」に興味を持っていることが見えてきました。

何よりも驚かされたのが、彼らが持っている鉄道に関する知識です。もちろん得意分野、不得意分野は誰にでもあるのですが、とにかく自分の好きな路線だったり車両だったりするとその知識は計り知れません。ちょっと聞きたかっただけのことが、想像をはるかに超える情報の塊となって私に戻ってくることもしばしばありました。ほとんどの内容が知らないことばかりで、どうやってこれだけの知識を吸収しそれを自分の言葉で再現できるのか不思議でなりませんでした。

さらにはあの鉄道に向ける眼差しと情熱。今になって何かに夢中になれることは素晴らしいことだと実感しています。

3. 私という一般人と彼らと鉄道

こうして一般人と鉄道を趣味とする人たちが関わりを持ち始めたわけですが、最後に鉄道を交通手段の一つとしてしかとらえていない人からすると、どうして、なぜ、こうすればいいのにと思うこと(気づいてほしいこと)をまとめていくことにします。

① 乗り換えと撮影に関して

次の列車に早くたどり着こう、良い撮影場所を確保しようと扉が開くなり猛ダッシュ。もう周囲なんて見えません。見えているのは目的の列車と場所だけです。撮影中に人(それが駅員でも)が被ってしまうなんてことが起きてしまったら、その浴びせる言葉や態度は目に余ることがあります。

(一般人目線) 周囲には日常生活として鉄道を利用している人や一般の旅行客だっています。旅行の思い出に列車を後ろにして家族や友人と写真を撮影して、どうして文句を言

われたり舌打ちされたりしなければならないのでしょうか。以前部活で旅行したときに撮影者同士の言い争いも見かけました。大人が子どもに本気で詰め寄っている姿も見ました。そのような様子を見てせっかくの旅行が不愉快な始まりになってしまいました。

「そんなの知らないよ。撮ったらどかない奴が悪いんだよ。」と思うかもしれません。私たちは撮影者同士の決まりごとなんて知りません。みなさんのようにカメラの扱いだって慣れていません。撮影に時間がかかってしまうこともあります。それでも皆さんほど鉄道に興味がない一般人にだって、その列車と撮影する権利があります。列車の美しい姿を残したい気持ち、他に撮影したい人たちのせいでうまく撮れないことに対する苛立ちを表に出したりぶつけたりしてくること、ごめんなさい。理解できません。覚えておいてください。

「鉄道は公共交通機関、つまりみんなのものです。」

② 乗車中に関して

乗車中に友人、仲間と話に花を咲かせたりゲームで盛り上がったりするのは良いことだと思います。ところが、乗っている車両や車窓に流れていく土地について否定的な発言をたびたび耳にします。そしてその声が大きく車内に響いていることもあります。ここでも見えているのは自分と仲間。自分しかいなかったら思っていても口に出さないでしょう。

また、目的はあるのでしょうが車内を行ったり来たりし貫通扉を閉め忘れ、停車駅では開けた扉を閉め忘れて他の乗客に怪訝な顔をされていること、気づいていますか。その扉から冷気や暖気が逃げていってしまいます。

(一般人目線) そこまで通過している場所と車両が気に入らないなら、わざわざ乗らなくてもよいのではないでしょうか。大声で聞いてくれと言わんばかりに生活の一部を否定されてもどうしようもないですし、地元の人たちには自分たちが否定されているように感じられてしまいます。皆さんも自分の好きな車両や田舎や住んでいる場所付近の悪口を聞きたくないはずです。もし聞こえてしまったら言い返したくなる気持ちに駆られるでしょう。言いたい気持ちをこらえて旅行してください。そして交通手段として使っている人たちは、

「乗っている車両が何かなんて気にしていませんし、地元が好きな人もいます。」

皆さんにとって旅の一部にすぎない列車は、地方の人たちの生活の足にもなっています。中には好意的にどこから来たのか話しかけてくる人もいますが、普段とは違う車内の様子にとまどう人もいます。そのうえ皆さんに好き勝手に大声を出されたり歩き回られたりしたら、落ち着いた気持ちで目的地に着くことができません。急ぎ足で車両内の目的の場所に向かっているとき、背後で注意を促すかのように大きな音で貫通扉が閉まる音を聞いたことはないでしょうか。ひとしきり盛り上がって落ち着いて周囲に目を向けると、前後左右にいた人が座席を移動していたことに気づきましたか。

「列車に乗っているということ、それは公の場所に身を置いているということ。」

③ 鉄研旅行に関して

個人旅行ではその名の通り自由気ままに旅行することができます。部員たちの様子から判断すると、時刻表を何度も開き、インターネットで乗換案内を幾度となく調べて綿密に計画を立てているのではないでしょうか。そしてその計画にきちんと沿って、それでも何かしらの目的を添えて遂行していく様子が浮かびます。話を戻すと、乗りたかった列車に乗るのも撮りたかった車両を撮影するのも自由、やりたいようにやり切れます。

鉄研でも年に 3 回旅行をします。旅行の中でも特に 4, 5 日間になる春の旅行に心躍らせる部員も多いはずです。どこに行くか、どの計画を採用するかはすべて部員が決めます。顧問も多数決に参加はするものの、勝手に決めることは絶対にありません。稀に私からやさしく参加を求められる高校生部員や卒業生がいますが、旅行は自由参加になっています。

保護者から許可をもらった参加申込書を提出し、旅行費を払って当日集合場所に来た皆さんは、ここから旅行・鉄道研究部の部員としての旅行を始めていることになります。また、中学生の間は班を作り、旅行中の自由行動計画を班員同士で話し合って決めたうえでの参加になっています。班は 3 名以上で作ることになっており、班員の決め方は基本的に自由です。現在の中学三年生は各自が持ち寄った案を見比べ、自分が気に入ったものを選んで班を作っています。鉄道三昧にするか観光三昧にするか、はたまた食い倒れにするのかは立案者次第、どれを選ぶかは自分次第です。こうすることで、今まで一緒に行動したことがなかった部員とも同じ目的を持って旅をしながら交流の機会が持てます。

(顧問目線) 上に書いてあるように旅行は自由参加です。参加するということは、旅行・鉄道研究部の部員として旅行案に沿って行動することが求められます。

自由行動計画も班員が決まった状態で旅行前に提出されています。その班に名前があるということは、仮に妥協であったとしても自分自身で計画を受け入れたことになります。他の班員たちとともに行動しなければなりません。どうして自分が行きたい場所に行けないことや乗りたい列車に乗れないことがわかっているはずなのに、旅先でもめ事を起こし、計画そのものや計画を立てた人に文句を言うのでしょうか。文句ではなく提案だと言うなら、伝え方に問題がなかったか振り返ってみてください。自分の思い通りにしたいのであれば、話し合いのときに主張するか自分が立案者になってください。事前計画から始まる鉄研旅行は、様々な個性が集まる鉄研で協調性を学ぶ最高の機会です。いいですか、

「鉄研旅行は個人旅行ではありません。」

自由行動に関してもう一つ。実は、数時間もの間部員たちだけで行動させ再集合場所まで向かわせることは、想像以上に危険です。これに途中離脱が加わります。迎えに来てもらわずに祖父母や親戚の住む最寄り駅に向かうこともあるでしょう。私たちは手はずを整えてもらわない限り引き渡しに居合わせることは不可能です。向かっているときに何かあっても何もできないのです。覚えておいてください。

「自由行動は部員と私たちの間にある見えない信頼関係で成り立っています。」

皆さんは、旅行・鉄道研究部の部員として私たちの目の届かないところで行動しているのです。高校生になって一人で自由行動ができるようになっても、皆さんは鉄研の旅行中です。何を言っているかわからないのであれば、**行方不明=鉄研終了**とだけ覚えておきましょう。

こうしてある程度部員にとっては自由な旅行ができているのは、先輩たちの中に私たちとの信頼関係を失わせるようなことをした人がいなかったからです。

普段の活動中に何かに制限がかかっていると、部員たちは決まって同じようなことを言います。「何でですか。自分たちがやったことじゃないから関係ないじゃないですか。」と。気持ちはわかりますが、これから先も絶対に譲りません。では、どうして制限がかかったかわかりますか。それは、信頼関係を壊した先輩たちがいるからです。

あれ、おかしくないですか。自由行動がある旅行ができているのは先輩のおかげ、活動に制限がかかっているのは先輩のせい。不思議ですよね。

皆さんは「自由行動がなくなった鉄研旅行」を後輩に残したいですか。

4. 最後に

一般人目線、顧問目線で書きたいことはまだ山ほどあります。どちらに関しても伝えたいことは、

「自分の世界は自分以外の人が支えている」

ということです。皆さんの趣味である鉄道は、誰かが線路を敷いてくれ、いくつもの異なる車両を製作し、それらに動力を与え、運転技術を身につけ、ダイヤを組み…と数えきれない人が関わっていて成り立っています。そんな彼らの生活は利用客の皆さんが支えています。

自宅や自分の部屋から出たら、そこはもう自分が支えられている世界。周囲に目を向けるだけで誰かを支えられます。あなたのちょっとした気配りや配慮で、数えきれない人を支えることができます。

自分中心になりそうなとき、自分以外の人がいるから自分中心になれることを思い出してください。